



改革の時こそ原点を大切に

理事長 竹内 修

改革の今

今の学習指導要領が平成十四年に実施されてから、四年が過ぎ五年目になりました。しかし、以前の指導要領の改正・実施の四年間とはあまりに異なる四年間であると思います。鳴り物入りで導入された総合的な学習は、二年もたない内から見直しが議論され、二年後の二十年からは、小学校への英語教育導入、今年度中には、根本の教育基本法の改正も行われようとしています。

また、昨年度末唐突に出てきた信教育研究所への職員派遣停止の問題、さらには子どもたちの安全に関する事件も多発し、まさに教育受難の時代と言えそうです。しかし、このような時だからこそ、これからの教育のあり方を原点から見つめ考え直さなくてはならないと思います。

先の教育会総会で述べたことではあります。原点からと言うことで、今年度の教育会の活動を「教育会を通じた研修」「教育会の社会的役割」という二つの視点で見直し、見通してみたいと思います。

主体的研修参加を
本会定款の第三条で「本会は会員相互の連携を保ち、その職能の向上を図り教育発展に貢献することを目的とする」とし、更に、第四条で職能向上の目的を達成するための研

第204号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会理事長 修
 編集人 竹内 修
 編集委員 吉越 眞
 印刷所 吉越 眞
 須坂新聞社

修や研究等諸事業を実施するとしています。信濃教育会や他の教育会も、同じ目的と事業

の実施を掲げています。教育会は、私たち教職員自身の職能向上のための研修機関として設立されたものですから、研究委員会を始め、県外視察や同好会への支援や講演会等の事業を、今まで以上に積極的に行いますので、会員の主体的・積極的な研修参加をお願いいたします。

特に、研究委員会に関して、本年度中心講師田中先生のご指導のまとめの年となります。また、十一月の社会科学委員会への指導もありますが、総会での指導を確かな実践へとそれぞれが結びつけていくってください。来年度に向けては、今までの田中先生のご指導と会員の要望・希望を生かし、上高井の願いと実態に合った中心講師をお願いしていきたいと思えます。

教育会は、校内に次いで身近な研修の場です。同じ職場の職員が同僚性を生かし、互いに研鑽し合うことと同じように、同じ地域で働く者として互いに協力し、研究・研鑽しあえる教育会にしていき

いと思えます。

教育会の社会的役割

教育会の果たすべき役割は、私たち自身の研修や職能向上だけではありません。「教育の進歩、社会教育、家庭教育の振興」さらには、「郷土の文化、自然の調査研究保存に関する事業」と定款に明記されています。

この趣旨を生かし、毎年行われている科学展や郡展、あゆみ展等の事業は、子どもたちにとどのくらいの自信や希望を持たせてきたことでしょうか。当たり前の事となり、運営の主体や込められている願いに気づくこともない程、浸透定着していると思えます。理科の先生方が中心となり平成十四年に発行された「上高井の自然」も同じです。

また、三団体で開催している教研集会にしても、参加されるPTAや諸団体の方々の声を聞いても、実のあるものになっていきます。これらの事業を通して、多くの成果を上げてきていることを、私たちは誇りにして良いと思えます。

真の教育改革を
次々に改革の波が押し寄せ、様々な教育問題や課題が山積している現在です。今こそ、教育会設立の原点に立ち返り、真の教育改革をして行かなければならないと思えます。

教育会だより

- 4 3 選挙公示(役員選挙)
- 4 6 第1回代議員会
- 4 6 第3回選挙管理委員会
- 4 10 教育会役員選挙(正副理事長、理事、監事)
- 4 12 第1回理事会
- 4 17 平成17年度会計監査会
- 4 18 第2回代議員会(信常担任、代議員補欠員、補充員の承認)
- 4 26 第4回選挙管理委員会
- 5 2 第2回理事会
- 5 9 研究総委員会・同好会発足(須坂小研究員会・同好会世話係・委員長・会長)
- 5 11 上高井教育研究会三団体発足会
- 5 12 新任者歓迎会(於 ナガイホール)
- 5 19 那研究推進委員会①
- 5 20 総会前日準備
- 5 20 教育会通常定期総会・講演会
(於 須坂市役所西館)
- 5 30 平成17年度会務報告並びに決算の承認
平成18年度事業計画並びに予算の承認
- 6 3 〇会員意見発表(中村文成教諭小布施中
表題 地域教材を生かした中学校
STS教育の展開)
- 6 3 〇講演 講師 田中統治先生(筑波大教授
演題 確かな学力を育てるカリキ
ユラム・マネージメント)
- 6 8 社会科学研究所推進委員会・研究企画
委員会(田中先生)指導
- 6 13 那研究推進委員会②
- 6 17 信濃教育会創立120周年記念
総集会(於 長野県民文化会館)
- 6 22 上高井教育会より77名出席
- 7 6 第3回理事会
- 7 6 第4回代議員会
- 7 21 那研究推進委員会③
- 7 21 同好会②
- 7 21 同好会③
- 7 21 上高井教育会報第204号発行

「本年度の研究委員会に望む」

研究委員会会長 黒岩和博

研究委員会では、先生方が

日々の授業の中から課題を見いだし、基本的・本質的な問題を究明することによって、職能の向上と上高井教育の充実発展を目指しています。

今年度は、「新しい自分に気づき『生きる力』を育むカリキュラムの創造」というテーマの最終年次です。各研究委員会ではこのことを念頭において研究を進めていただければと思います。

研究内容は以下の通りです。
●「特色ある学校づくり」のためのカリキュラムの創造と評価の研究

●教科、領域として「育むべき資質・能力」を明確にし、自己の可能性に気づき、学ぶ意欲と喜びのもてるカリキュラムの開発

●各学校のもつ地域的・社会的特色を生かし、各教科・領域間の教育課程における役割と関連したカリキュラムの開発と評価計画

●授業評価およびカリキュラム評価を具体的な児童・生徒の姿で検討し、授業が変わり、学校が変わる道筋の研究

●小中のつながりからのカリ

キュラムの検討

●昨年度までの研究を活かし、カリキュラムの創造における成果と課題

各研究委員会においては、昨年度までの研究経過を踏まえながら、どこに視点をあてて研究を深めるのかを明確にして取り組んでほしいものです。五月二十日の田中統治先生の講演の中で、次のようなことについてご指摘いただき、二つの小・中学校の学校改善に向けた具体的な実践例を学びました。

★カリキュラム・マネージメントは授業を変えることで学校を変えていくことを目指している。

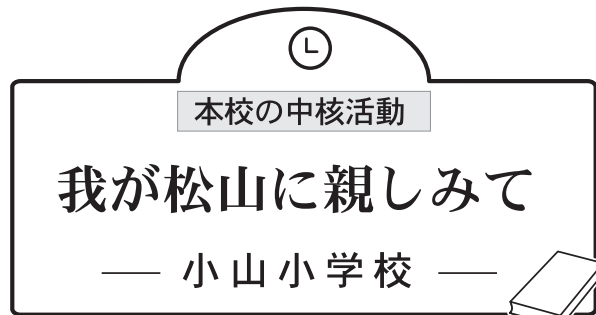
★確かな学力とは、「読み、書き、計算」ではない。生きる力という質的に高い学力を目指している。

★生涯にわたって学び続け、自分に関わる問題を解決できる知性を育てていくことが重要である。

★カリキュラム・マネージメントのポイントは、先生方の会議力を高める事にある。田中統治先生の最終講演にあり、現場の最先端にいる私たちが具体的なイメージをも

って、さらにカリキュラムの研究を深めていけるようにご教示いただきました。

児童・生徒にとって、日々の授業がどうあればよいか、子どもたちの学びの姿をイメージできる、そんな授業づくりに努めていきたいものです。
(墨坂中)



本校の校歌の一節に以下のよう部分があります。

「我が松山に 親しみて」

ここで言う松山とは、本校のすぐ隣にある臥竜公園(臥竜山)のことです。「我が」と謳っているように、臥竜公園は、本校の一部と言っても過言でないほど、子どもたちは深く関わりながら学習しています。

まず、毎週火曜日の朝は、全校児童が臥竜公園でマラソンを行います。地域の方々にも見守っていただきながら、学年に応じたコースを走ります。春と秋にはマラソン大会がここで行われ、記録の伸びを確かめながら、練習に励んでいます。

低学年は生活科の授業で、四季折々の豊かな自然に親しみます。時には保育園児との交流の場になります。高学年になると理科の自然観察や公園の入口にある博物館での歴史学習もあります。

総合的な学習の時間でも多くの関わりがあります。動物園との交流は、今年で五年目に入りました。飼育員さんとの交流しながら、動物園の様々な仕事を体験させていただいています。自分が興味を持った動物について調べたり、自分たちで何かできることはないかと考えたり、学習は多方面に広がっていきます。園内に花壇を作る、看板を作る、動物クイズを作る、ふれあいコーナーのお手伝いをする等々。活動は毎年新しい学年に引き継がれています。

竜ヶ池の浄化活動も、今年で四年目に入りました。腐敗菌を食べる有用微生物群のEM菌を利用して、公園事務所と一緒に活動を続けています。EM菌の原液と米のとぎ汁、糖みつを混ぜてペットボトルに入れて

ペランダに置き、培養液を作ります。同様に、池の底に沈めるEMの土だんごも作り、地下通路に保管しています。これらを定期的に竜ヶ池に入れ、池の水質調査も行っています。効果は着実に現れてきており、昨年度の活動を引き継いだ六年生は、張り切ってこの活動に取り組んでいます。

その他にもテーマを決めて公園で調査活動を行った実践がたくさんあります。公園に咲く花、桜の種類、池に棲む魚、動物等。これらは大きなマップにまとめられています。

秋になるとJRC委員会が中心になり、きょうだい学級ごとに落ち葉はききにかけます。全校の児童が、公園への感謝の気持ちをこめて、清掃活動に取り組みます。

また、自律学級の子どもたちも公園で多様な学習を行っています。自然の中を歩き、集めた木の実で作品を仕上げたり、みんなで大きな貼り絵を作ったりします。公園のお店での買い物学習も楽しみの一つです。冬には、昇竜坂でそりすべりを楽しむこともできます。臥竜公園の自然や、そこで出会う人々から、私たちはたくさん宝物をいただいています。

私たちの心のふるさと臥竜公園。ここでの学習をさらに充実させ、引き継いでいきたいと思えます。

(田幸康宏)

自分が主人公であれ

同好会会長 持田和男

私たちはたくさんの分かれ道にぶつかる。授業の方法、生徒指導等あげていけばきりが無い。ごく些細なことから人生を決するような重大なことで、どちらかを選ばなくてはならないことがたくさんある。そのような時、どのように選択しているのだろうか。自分の心の中で様々な議論をし、計算をし、自分を納得させて結論を出しているはずである。深く考え、広く検討して、険しい道の方を選んだなら

明日からの授業のために

算数・数学同好会長 寺島寿一

昨年、「算数・数学同好会の紹介」の機会をいただきながら、「全国算数・数学教育研究(長野)大会の準備等」同好会の活動らしいことが書けない」という理由でお断りしたものが、一年後再び声がかかり、恐縮しながら書くこととなりました。

ならば、たとえ予想以上の苦しい場面に至ったとしても、後悔はほとんどないであろう。しかし、よく考えないで、本能的な欲求のままに安楽な道を選んだならば、必ずや大きな後悔と挫折感を味わう時がくるであろう。ましてや、他の人に進むべき道を決定してもらったのでは、必ず訪れてくる厚い壁を打ち破る力は出てこないであろう。

「これまでに算数・数学同好会では、夏休みの同好会集中日に合わせて、数学の最前線では活躍される方から「算数・数学を学ぶ意欲を高める、そして

だけすばやく結論を出し、行動に移すように心がけている。たとえその選択が良い結果をもたらさなかったとしても、自分が全力で考え、判断した上のことであるからと諦めもつく。しかし、それは弱気な諦めでなく、積極的な前向きな割り切りだと思っている。なぜならば、他人や何か他の物によってそうさせられたのではなく、自分があくまでも自分の行動や生活を決する主人公であったからである。他人に責任を転嫁したり、自分の存在を否定したりするような生き方はしたくないものである。

(東中)

かせるものであると多くの先生方から感想が寄せられました。

今年の夏休みの同好会では、八月四日午後二時より千葉市教育センター主幹である五十嵐一博先生を講師に学習会を行う予定です。五十嵐先生は「数学科の授業づくり はじめの一步」という著書もあり、今年度の「数学教育四月号」で「夢広がる数学授業を！」という提言をし、その手立てを紹介しています。明日からの授業にそのまま生かすことができる内容なので、会員以外の方の参加もお待ちしております。

(東中)

本校の宝④8 高亀池 高甫小学校

高亀池

体育館南側に「高亀池」という名前の小川が流れています。子どもたちは、足を入れて水遊びをしたり、草舟を流して遊んだりして楽しい遊び場の一つになっています。



この池は、昭和六十三年に学校とPTAが中心となり、地域の方の協力を得ながら、自然観察園の一部として造られたものでした。子どもたちに「自然と接し、生き物を大切に育ててほしい」という願いがこめられています。以前から「学校せき」というものを地域の方は、大事にしてくれており、その水を引き込んで造られました。名前は、子ども

ちが考え、高甫の「高」と亀の里須坂の「亀」ととって、「高亀池」と名付けられました。以来、高甫の子どもたちは、池に魚を放して育てたり、学習に役立てたりして親しんできました。ところが、新体育館建設に伴い、高亀池がある場所が体育館になってしまうことになり、平成十六年になくなってしまいました。体育館が平成十七年三月に完成すると、さっそくPTAの方々が高亀池の再造成に動き出してくれました。歴代のPTA会長の皆さんや地域の方々、建設業者の協力を得て、平成十八年二月に新しい高亀池が完成しました。

(竹前金三)

火ばち談義



日滝小 野口みどり

わが家の火ばち談義

海野良潤

小三になる娘がどこかで嫉捨説話を聞いて来たらしく、それについて「捨てられたのはおばか母か。」と訊いてきた。続いて中一の次兄が、「なぜ、あそこが月の名所なのか。」と来る。父母も巻き込んだの「おぼすて研究会」となった。皆で調べたり話し合ったりした結果、次のような結論となった。この説話の原初は、『今昔物語』(三〇一九)に

あり、親同様にご恩を受けた叔母を、新妻の要求に負け遣棄するとうもののである。この若者、奥山から駆け下りてこの場所へ来た時、皓々と照らす月光のもと、己が罪に苛まれて、
「我が心慰めかねつ更級や 姨捨山に照る月を見て」
の歌が口をついて出てきてしまふ。再び来た道を駆け登り、この叔母を連れ戻すというも

心にゆとりを

伊藤みさき

早いもので、ここ上高井に初任者として赴任して、今年で三年目になります。

一年目は、ただ自分のことで精一杯。周りをみる余裕がなく、恥ずかしい限りですが、生徒一人ひとりの顔も、ましてや良さなど、全然見えてなかったように思います。

三年目になり、学校の様子もつかめてくると、徐々にいろいろなものが見えてくるように

なりましたが、その代わり、生徒に対するお小言も増えてきた気がします。些細なことでもつぶつと、まるでお姑のよう(反省)。ある時、先輩の先生に言われてしまいました。「顔がこわばってるぞ。土日でもリフレッシュしてこい。」ガーン…。その時から、意識的にリフレッシュできる時間を持つようになりまし。お気に入りコーヒー屋さんへ行き、ゆっくり

のである。この所では別の名所には言及していない。むしろこの歌が基になって、後年、観月の名所となったのではないかと思われる。
「実母を背負う」というのは少し後れた鎌倉初期の古歌から出ているようである。息子が親の自分を捨てた後、「帰る道の間違えないように」と小枝を折っておいてやる」というものである。
話が終わりかけた頃、父親が「先の若者の歌だが、最後の『て』に濁点をつけるとうんな意味になるか」と来た。なるほど「見で」だと視覚障害の人の悲しみの歌になる。日本語の面白さについても考えさせられたひと時であった。(仁礼小)

と好きな読書を楽しんだり、シヨッピングに出かけたり。
旅行も好きです。少し前には草津へ行き、「草津くよいとこく」と、湯もみ体験をしました。なぜ湯もみなんてするのか、昔の草津のお湯の入り方を知ることが出来たとて楽しかったです。行ったことのないところへ行き、そこでしかできないことをする。私の次の目標は、タイで象に乗ることです！
心にゆとりを持ち、日々笑顔で生徒の前に立ちたい(なるべく)と思っている今日この頃です。(小布施中)

編集後記

平成十八年度最初の会報をお届けすることができました。お忙しい中、原稿を寄せて頂いた皆様に、心より感謝を申し上げます。

本年度も、会報発行は年二回、次の委員でお届けします。

委員長
副委員長
委員

- 委員長 吉越 眞一(栗ガ丘小)
- 副委員長 古川 裕子(東中)
- 委員 田中 敬士(井上小)
- 山下 文代(小山小)
- 下川 光子(仁礼小)
- 中沢 裕子(豊丘小)
- 小川 洋史(常盤中)
- 青木 典子(小布施中)

平成18年度 県外視察者名簿 (敬称略) 上高井教育会					
	学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施時期
1	栗ガ丘小	綿田由紀子	国語・算数の授業づくりを見直す	東京	7月下旬又は8月下旬
2	"	鶴田 恵市	小学校英語活動について	関東	10月～11月
3	高山小	久保田啓一	学校教育における人権同和教育のあり方	松山市	12月2～3日
4	小山小	鹿野 朋子	食育・生活習慣指導の先進校に学ぶ	関東方面	2学期
5	森上小	鈴木左代子	英語活動の進め方	東京	10月
6	日滝小	越 浩一	原子力体験セミナー エネルギーについての基礎的理解	茨城県東海村	8月3～4日
7	豊洲小	白井 光裕	幼・小・中の連携	横須賀市	10月20日
8	"	松田 嘉博	個に寄り添う授業の構築、座席表授業案の研究	静岡県安東小	11月17日
9	高甫小	宮崎 秀文	教科学習における総合的な学習的な追究のさせ方	富山県堀川小	6月21日
10	旭ヶ丘小	北沢 秀忠	「子どもの力」を高める体育指導のあり方	関東方面	1学期
11	"	手塚 綾	小学校の合唱指導(NHK合唱コンクール全国大会3連覇の様子を視察)	関東方面(国立大岡山小)	1～2学期
12	仁礼小	竹内 正	子どもの「力」を高める国語教育	筑波大附属小	6月2日
13	高山中	澁谷 和子	技術・家庭科教育を学ぶ	埼玉県	10月下旬
14	常盤中	三溝 清洋	環境教育先進校「最新ビオトープモデル校」視察	東京都武蔵野東学園	6月
15	相森中	征矢野英輝	これからの運動部活動の指導のあり方、コンディショントレーニングの実践	関西方面	8月～
16	"	桂本 和弘	日数教全国大会(東京大会)	東京学芸大	7月31日～8月1日
17	"	柴 直人	国語の授業に活かせる“生きた教材の発見”	関東	11月
18	"	片山 洋一	小学校高学年での英語活動のあり方	関東	8月
19	墨坂中	宮下 正己	つくり出す喜びから生きる喜びを求めて～美術教育の力を改めて問う～	静岡文化芸術大学	7月29日～30日
20	"	飯泉 大輔	地域に根差した平和教育の実践	埼玉県所沢	7月29日～30日
21	東中	寺島 寿一	第88回全国算数数学教育研究大会への参加	東京	7月29日～30日